

日本復興の鍵は愛とサイエンスの融合 ホメオパシーにあり 自然に生きよう！

写真提供 / カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー CHthom シーエイチホム 取材・文 / 伊藤啓子



ホメオパシー健康相談

第14回JPHMAコンgres (日本ホメオパシー医学協会学術大会) が明治神宮にて行われ、2日間で1400名が参集し盛大に開催されました。

テーマは「愛とサイエンスの融合ホメオパシー 愛は無敵」。大会長は、日本のホメオパシーの第一人者である由井寅子会長。日本に普及することに尽力をして18年、「とらこ先生」として多くの日本人に親しまれてきた。とらこ先生がクライアントを通して18年見つけた日本の姿と、これからの日本人の生き方について。日本国と日本人を愛し、自分を心から愛するホメオパシーの生き方とは。とらこ先生へインタビューしました。

日本人の身体は本当に健康？

私がホメオパスとなったのは、英国で潰瘍性大腸炎になり、どの治療法からも見放されたときに、ホメオパシーと出会い病気が完治したからです。その後英国のホメオパシーカレッジで大学院まで学び、日本人初の英国ホメオパシー医学協会認定ホメオパスとなり、英国でクリニックを開業しました。

しかし、日本からわざわざホメオパシーを受けたいと私のところに相談に来る難病のクライアントが多くなり、日本でのホメオパシー普及の必要性を感じ、日本に戻ると同時にホメオパスを育成するための学校を開校しました。18年前のことです。

私が日本に戻って来て一番驚いたことは、英国で普通に治療していた病状が日本ではなかなか治療して行かないという現実でした。日本人とヨーロッパ人の違いを調べてわかったことは、日本人の方がずっとたくさんワクチンや薬をとっているという点でした。ホメオパシー(同種療法)は、「火をもって火を制する」という格言が意味するように、たとえば発熱時にあえて熱を出させるような薬草をとること

で自己治療力を触発し、自然と熱を下

げる療法です。逆に現代医学のように熱を強引に解熱剤で下げける方法はアロパシー(逆療法)と言います。熱は老廃物でもウイルスでも排出のために出るものですから、強引に熱を下けたのでは原因は残ったままになり慢性化してしまいます。

また、症状の原因が有害物質の場合、その有害物質を極微量ずつと自己治療力のスイッチが押され排出が始まりますが、極微量でも危険です。そこで原物質が全く含まないほどに高度に希釈振盪(薄め叩く)して作られるレメディと呼ばれるものをホメオパシーでは使います。物質はなくてもレメディは物質情報を有し、驚異的な生理活性を示すことが証明されています。発達障害、自閉や多動などの解決方法が見つかっていない子どもたちの症状を観察し家族から話を聞いたとき、ワクチンに含まれるアルミニウムや有機水銀との関連が強く疑われました。



出雲大社にて

veggy